

## Q 書くことが苦手なのですが・・・

ふみお君は書くことが苦手です。ひらがなやかたかなでは、鏡文字(例：「く」→「>」)や、似ている形の字の間違い(例：「シ」→「ツ」)が度々みられます。漢字についても細かい書き間違いがあります。(「湯」→「」)。

そこで、先生はアセスメント（子どもの様子をじっくりと見て、どんなことがこのつまずきに関連しているかを考えること）をしてみました。

担任の先生は、ふみお君の読みの力をチェックしました。同じような間違いが読みでも少しみられましたが、自分で修正しながら読むことはできました。さらに、どういう文字を間違いやすいかチェックしたところ、形の構成が複雑な文字ということがわかりました。そこで、書くことの指導を開始することにしました。



### ここで行われたアセスメントのポイント！

- 困難な領域だけでなく、同じ文字でも読む方はどうかについて把握する
- 読みのつまずきが深刻な場合には、まずは読みからアプローチする
- どういう文字を間違いやすいかについても捉える
- 丁寧に把握することで、子どものつまずきの要因を推測する

### 推測できるつまずきの要因

- 形を正確に捉えることが難しい
- 形を正確に記憶することが難しい
- 目と手を協応させることが難しい



指導編は以下に

アセスメントに基づいて、担任の先生は、次のような指導を行ってみました

- A 鉛筆や消しゴムなどは、使いやすいものを用意する
- B マス目の大きいものや罫線のある用紙を用意する
- C 授業ではなるべくワークシートを使う
- D 文字を練習する際、ことばによる意味づけを行う
- E 漢字テストなどでは、大まかに書けていれば正解または準正解にする

担任の先生が行った指導の意味

- 特に不器用さがある場合には、Aのような用具に関する配慮は必須になります。
- Bのような配慮は有効ですが、その子どもだけ特別なものを用意するのではなく、必要な子どもには誰でも使えるようにするなどの配慮も必要です。
- Cのように、書く作業の負担を減らすことで、授業での内容の理解や、重要事項を考えることに集中できます。
- Dのようにことばによって意味づけすることで、記憶する際の手助けになります。
- 取組への意欲を低下させないためにもEのような配慮は必要です。